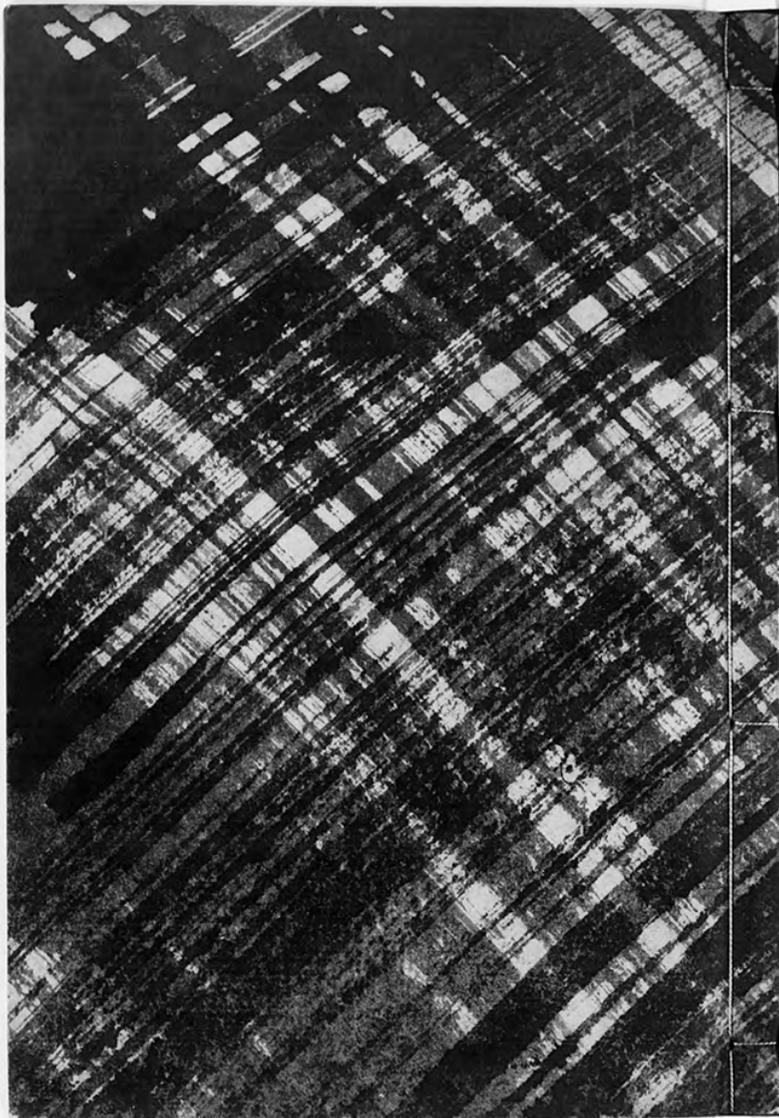
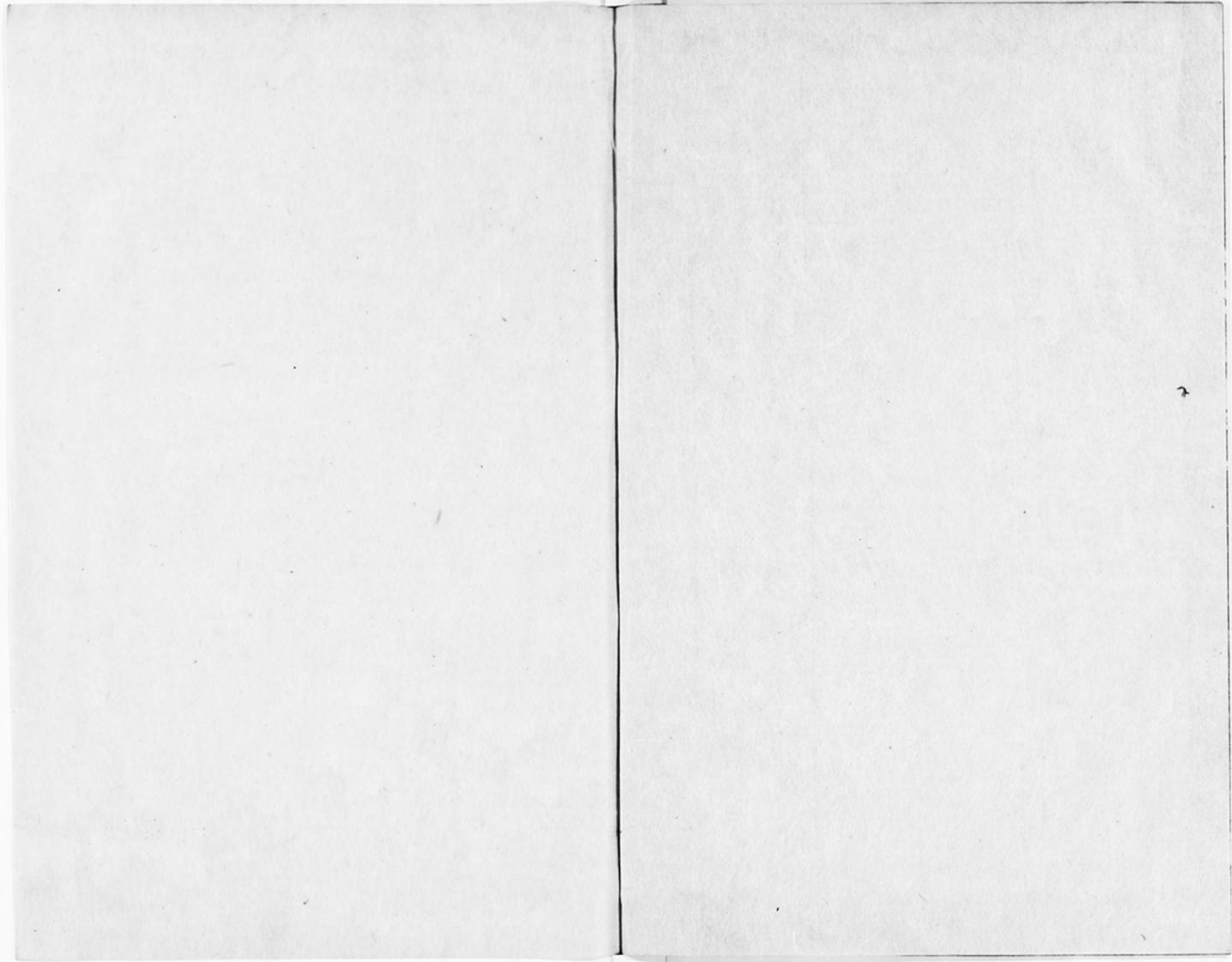
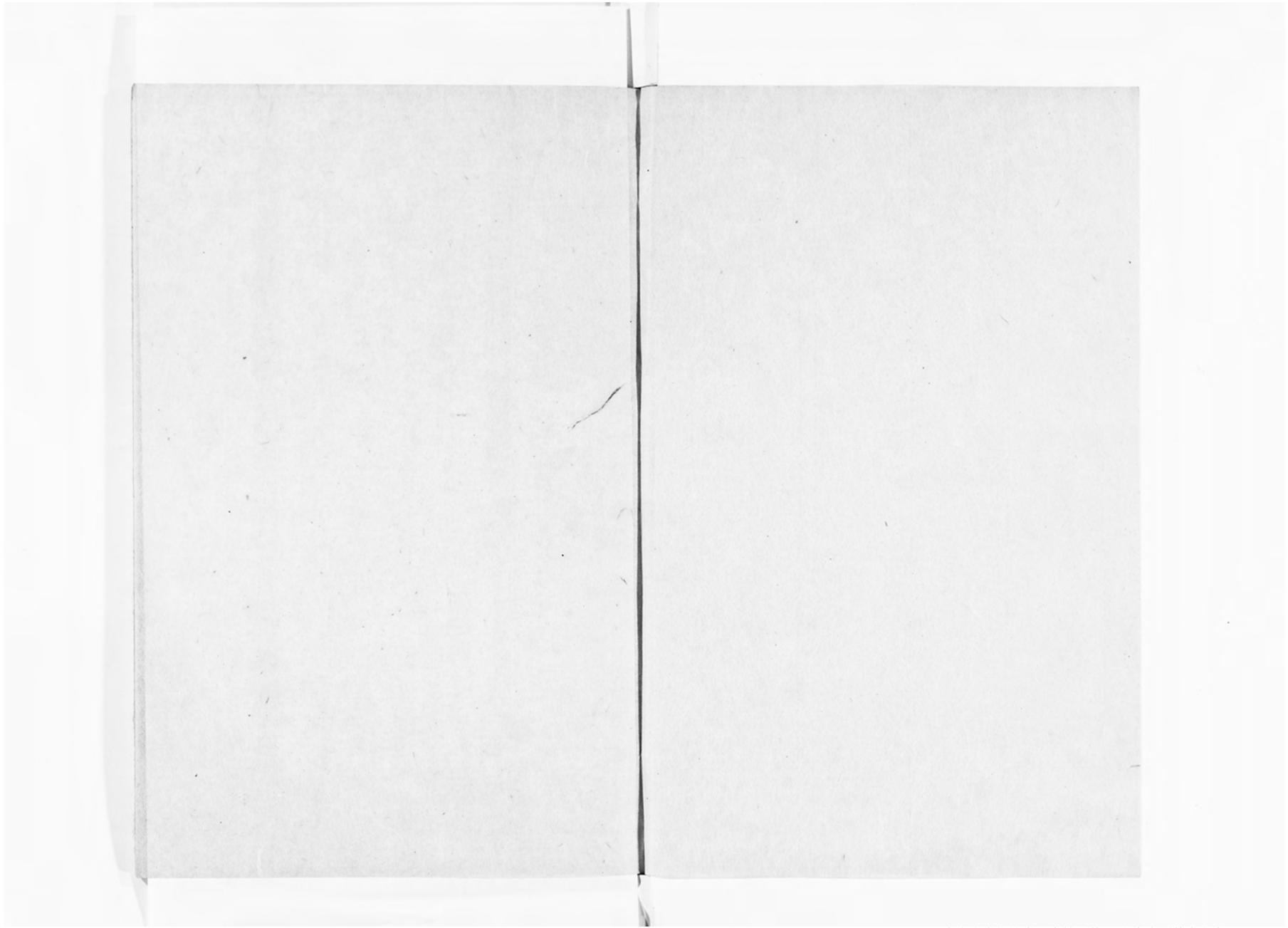


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。







朱書

目録

朱書

朱書

朱書

朱書

朱書

朱書

朱書

一 由高橋三橋名手書也
其本二所記及高橋
并藏所記名手書也

高橋三橋名手書也
其本二所記及高橋
并藏所記名手書也

一 由高橋三橋名手書也
其本二所記及高橋
并藏所記名手書也

高橋三橋名手書也

外

一 由高橋三橋名手書也
其本二所記及高橋
并藏所記名手書也

高橋三橋名手書也

一 由高橋三橋名手書也
其本二所記及高橋
并藏所記名手書也

高橋三橋名手書也

右記所記高橋三橋名手書也
其本二所記及高橋
并藏所記名手書也

越後ノ信守ノ一筆ヲ見ルニ其筆亦古風ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ

其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ
其ノ筆ノ下ハ古ノ筆ノ如ク平手ノ筆ニ似テ

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, consisting of several lines of characters.

Handwritten title or section header, possibly indicating a specific category or date.

Handwritten text enclosed in a rectangular box, possibly a signature or a specific note.

Handwritten text enclosed in a rectangular box, possibly a signature or a specific note.

Main body of handwritten text in cursive script, continuing the list or account from the top of the page.

朱書

素指家... 書周... 年... 書周...

生見

吳政... 年... 初... 移

書周... 年... 書周...

高野山 平野 寺
平野 寺 平野 寺
平野 寺 平野 寺

高野山 平野 寺

高野山 平野 寺
平野 寺 平野 寺
平野 寺 平野 寺

高野山 平野 寺
平野 寺 平野 寺
平野 寺 平野 寺

高野山 平野 寺
平野 寺 平野 寺
平野 寺 平野 寺

高野山 平野 寺
平野 寺 平野 寺
平野 寺 平野 寺

朱書

由三村定平系
出河前定平系
出河前定平系

出河前定平系
出河前定平系
出河前定平系

由三村定平系
出河前定平系

出河前定平系
出河前定平系
出河前定平系

出河前定平系

出河前定平系

出河前定平系

出河前定平系

出河前定平系
出河前定平系
出河前定平系

出河前定平系
出河前定平系
出河前定平系

まゝのり人本利得十才の成大七十合と事と成道と成
の國の事本と淫荒と有即道方治教費と多分五の國是
ののり自の、自及のり成道有程、一は、二は、三は、四は、五は、
六は、七は、八は、九は、十は、十一は、十二は、十三は、十四は、十五は、
十六は、十七は、十八は、十九は、二十は、二十一は、二十二は、二十三は、
二十四は、二十五は、二十六は、二十七は、二十八は、二十九は、三十は、
三十一は、三十二は、三十三は、三十四は、三十五は、三十六は、三十七は、
三十八は、三十九は、四十は、四十一は、四十二は、四十三は、四十四は、
四十五は、四十六は、四十七は、四十八は、四十九は、五十は、

西の事本利得十才の成大七十合と事と成道と成
の國の事本と淫荒と有即道方治教費と多分五の國是
ののり自の、自及のり成道有程、一は、二は、三は、四は、五は、
六は、七は、八は、九は、十は、十一は、十二は、十三は、十四は、十五は、
十六は、十七は、十八は、十九は、二十は、二十一は、二十二は、二十三は、
二十四は、二十五は、二十六は、二十七は、二十八は、二十九は、三十は、
三十一は、三十二は、三十三は、三十四は、三十五は、三十六は、三十七は、
三十八は、三十九は、四十は、四十一は、四十二は、四十三は、四十四は、
四十五は、四十六は、四十七は、四十八は、四十九は、五十は、
五十一は、五十二は、五十三は、五十四は、五十五は、五十六は、五十七は、
五十八は、五十九は、六十は、六十一は、六十二は、六十三は、六十四は、
六十五は、六十六は、六十七は、六十八は、六十九は、七十は、

朱書

抄
朱書
六月

夏利小方... 朱書

卷一

春以... 朱書

夏利... 朱書

朱書

朱書

朱書

揚子江山水一覽

右村... 國... 年... 村... 中...
揚子江山水一覽
右村... 國... 年... 村... 中...
揚子江山水一覽
右村... 國... 年... 村... 中...

村... 國... 年... 村... 中...
揚子江山水一覽
右村... 國... 年... 村... 中...
揚子江山水一覽
右村... 國... 年... 村... 中...

朱書

又ハ古ク又ハ心傳後中ノ月ハ我ハ其年三身ノ在也方角
 位體ハ此東ノ為ニシテ其方ホ味味後々ト成ルノ故ト云フノ故
 此方日本國後中ノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ
 本國ホ昔今ト成ルノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ
 心ノホ昔今ト成ルノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ
 年ホ昔今ト成ルノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ
 此ノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ

海東此處ニ在ルノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ
 心ノホ昔今ト成ルノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ
 此ノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ
 年ホ昔今ト成ルノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ
 此ノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ
 年ホ昔今ト成ルノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ
 此ノ故ト云フ事入者一傳ニ此本未傳ノ

朱書

三月廿五日... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月... 初...

庚子年... 正月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

文久元年... 去...

書... 郡村... 乃...

元

村...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The characters are highly stylized and interconnected, characteristic of a shorthand system. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, spanning two pages. The text is written in a fluid, connected style characteristic of early modern Japanese calligraphy. The right page contains approximately 10 lines of text, while the left page contains approximately 8 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

朱書

利存心之海陸上其勢多々其年其勢多々
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々

其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々



其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々

其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々

其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々

朱書

天下事皆自出於心... 惟其心正... 則其言亦正... 故君子必先正其心... 然後求其言... 此其所以為學也... 夫學之於心... 猶水之於木... 木無水則枯... 心無學則昏... 故君子必先求其學... 然後求其心... 此其所以為道也...

嘉慶五年三月

二階方孝節郎下

冲易室所

長平王傳... 嘉慶五年三月... 此其所以為道也...

嘉慶五年三月... 惟其心正... 則其言亦正... 故君子必先正其心... 然後求其言... 此其所以為學也... 夫學之於心... 猶水之於木... 木無水則枯... 心無學則昏... 故君子必先求其學... 然後求其心... 此其所以為道也...

嘉慶五年三月

朱書

夏廿楨... 於大村楨... 於南已... 於延... 於年... 於字... 於定... 於取... 於取... 於取...

光

皇宣近拾年... 初滿

光緒... 人

某... 延... 楨... 年... 字...

國... 字... 楨... 名... 字... 亦... 亦... 亦...

以... 列... 之... 何... 之... 反... 亦... 楨... 亦...

以... 楨... 亦... 楨... 亦... 亦... 亦...

國... 字... 楨... 名... 字... 亦... 亦... 亦...

以... 列... 之... 何... 之... 反... 亦... 楨... 亦...

以... 楨... 亦... 楨... 亦... 亦... 亦...

合... 國... 字... 楨... 名... 字... 亦... 亦... 亦...

以... 列... 之... 何... 之... 反... 亦... 楨... 亦...

以... 楨... 亦... 楨... 亦... 亦... 亦...

以... 化... 之... 年... 楨... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

以... 年... 楨... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

朱書

一由之指八石牙并余答

成刻之何七及之指

本在在年并八公

本在在年并八公

本在在年并八公

本在在年并八公

本在在年并八公

外

田字或指之石牙并余答

田字或指之石牙并余答

田字或指之石牙并余答

田字或指之石牙并余答

田字或指之石牙并余答

田字或指之石牙并余答

本在在年并八公

本在在年并八公

本在在年并八公

本在在年并八公

本在在年并八公

田字或指之石牙并余答

田字或指之石牙并余答

田字或指之石牙并余答

田字或指之石牙并余答

右村之依記化二三年秋中夜之方有如水之指地如未之春

三秋時用帶日方有世不空候之五國方之指石余之天同四未之

辰近指之年身子致五年空之世之世末末南之在年身未細

之系田字或指之石牙并余答

少之性之改後如個之通之在木林南之年身身之成之

場不之之之至致遠而之成之味位之身身中致之入之

朱書

長江遠海之氣... 丹波... 本先入... 以合... 以是... 以并... 見... 言... 亦... 因... 國... 形... 南... 作...

無錫...

物田...

仰...

表書... 國... 長...

朱書



世本手入書存世僅餘一冊字散得之者皆係札之遺蹟
 以之而為之者少也

三

東坡摘錄於此 蘇東坡詩集卷之九 雜詩 朱伯書

因之包括之年山下酒

申之包括之年李月

荒烟子多指八万汗第人合

付多列百之控之所受九四控之五全

付城亦五百尺控之至汗第九六六

付在城百之控之至汗第九六六

世本手入

世本手入

世本手入

一荒烟子多指八万汗第人合

付多列百之控之其所受九四控之五全

付城亦五百尺控之至汗第九六六

付在城百之控之至汗第九六六

世本手入

朱書

一 古書... 卷之九... 卷之八... 卷之七... 卷之六... 卷之五... 卷之四... 卷之三... 卷之二... 卷之一

南年起送右國...

外

一 古書... 卷之九... 卷之八... 卷之七... 卷之六... 卷之五... 卷之四... 卷之三... 卷之二... 卷之一

中書... 卷之九... 卷之八... 卷之七... 卷之六... 卷之五... 卷之四... 卷之三... 卷之二... 卷之一

卷之九

右傳... 卷之九... 卷之八... 卷之七... 卷之六... 卷之五... 卷之四... 卷之三... 卷之二... 卷之一

右列... 卷之九... 卷之八... 卷之七... 卷之六... 卷之五... 卷之四... 卷之三... 卷之二... 卷之一

朱書

右前村の田村の解意は下二白年平為守也入
吟佳法は右七三集於於山谷切界情則言地味云
水田村の村事来一自解地之一旦能返り代庫と因家
と成就中云保七申年以崖の米決運格との多右外
自解意光通と出来旧年平井物打穿と後保信格の力
名河田再流と成格り及言中も旧年平上河越出来田
格も年平之池事来と命身云三十三万と先多は情河
以下考はは不相形なり一り代案来と教生立再流と成

此等の外平言一自井物以成之書後以身井上女積也力
中流再通村言一上事也通名上悟水も物格年事也
端白事云と通也事来云下之及お形と形と通と命身
の流字河流能く書田物と古格名之に身事又人せり水
云事七白三むかふ下二白年平身也七事来云下
旧年平上河右年事中也格も入名及事来云三
北中三五りり知之入一橋道也使之流のりく法入
相り云一

朱書

古之澶村之微也者三國年序感之大風曰
洪中台地也學及其齊之支配得而學力者其細
見多之言入策之也通分相除押地其在澶台
者速輕也通坊所同上年李劉方其作月
常年年李劉方其作佳佳安古材法海海附之
浮舟人少國家所善地坊所谷者之薄地
殊更押地之雨木之及每通之流河不食

澶田也

澶田也

澶田也

吾之為物人少之進丹精也其境之元氣深善之
容易後起返其人之方之念者其月之入相相也
吾之為物人少之進丹精也其境之元氣深善之
永年李劉方其作佳佳安古材法海海附之
及分而作安之之在相達之容易之在通坊所
之在相達之容易之在通坊所
唐河之相達之容易之在通坊所

朱書

長壽縣 大龍法師 三郎 牛化 登一郎 山月 兼子卿 大取

表書之其州之濱村松地超道經年壽
之儀何趣之乎和記種之書尚高之也
羅方之法原主高計之亦男之書亦分其居
格之年之月年唐律地之合厚母孫年身
之身之程進以係了相因比謝夫市久之上

村田 未
長中 八月

古六 長壽縣
國神村之居改之院地之西而取之表書送空取經年壽之通書

同(一)也
唐改之院地之西而取之表書送空取經年壽之通書
白身之未出移之年 季子明
尚中久已正移之年 季子顯

一由之百指原之其非其合

唐改之院地之西而取之表書送空取經年壽之通書
白身之未出移之年 季子明
尚中久已正移之年 季子顯

白身之未出移之年 季子明

古村之之濱海濱附又古山家之博示砂地吟乃裁中

古村之之濱海濱附又古山家之博示砂地吟乃裁中

唐改之院地之西而取之表書送空取經年壽之通書

取下定取
經年 季子顯

白身之未出移之年 季子明

唐改之院地之西而取之表書送空取經年壽之通書

層地之義、國勢人文之變、古傳七由年、似解法、
 則、法、退、情、之、多、子、解、地、地、中、之、實、未、納、相、同、
 進、之、難、臨、臨、既、元、辰、年、以、前、并、既、元、辰、年、之、因、
 相、言、地、之、形、觀、以、言、法、法、中、回、言、地、之、年、之、無、任、
 名、前、言、一、以、以、亦、立、其、中、名、同、之、言、同、以、言、法、
 以、歲、有、之、孫、之、交、亦、亦、二、百、年、後、同、法、解、之、配、之、以、推、見、
 村、之、地、之、推、見、也、之、上、言、之、不、後、人、也、之、法、中、法、
 相、之、法、中、法、中、出、り、り、相、同、之、上、古、法、法、中、法、中、法、
 也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
 身、重、烟、水、滴、之、指、米、冷、性、性、積、回、人、羊、為、方、亦、亦、亦、亦、
 以、法、又、日、年、之、未、進、法、年、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、
 明、之、月、以、性、性、性、性、性、性、性、性、性、性、性、性、性、性、
 則、之、近、也、遠、也、遠、也、遠、也、遠、也、遠、也、遠、也、遠、也、
 整、入、用、は、理、方、も、只、又、法、法、法、法、法、法、法、法、法、
 猶、又、法、年、定、取、法、年、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、
 為、是、地、不、見、之、為、は、法、中、之、通、法、地、法、法、法、法、法、

朱書

此書未考其年或為嘉慶中事其近
指今年亦下定章中身年季中地不
多又方之句後中河坊子古石于世居之
年季有云猶心之句道分味之古句以
乃七中又有之句以

甲申 申九月
古卯

吳州 藝藏 款村 手 解 義 狀 川 台 德 年 案 例 書

本主人畧之

文久元年四月

森田三郎下

海勅定所

長年下野
此書是為八三即一分書也

海勅 第一册 大曲 中一册

文久元年

此書之吳州藝藏款村手解義狀川台德年案例書
引方德年季之候何之據台也知也款定

朱書

右多富村少字村の底細以下向意の年事は任事申入
吟味信忠在る年米租額と仰山の切取の場所と高坪米の
不台の海之殺年米の多額長言巨額の海流建と田新令
表成物申天保七年年凡陸山米流退情と多右
自給意快此の米四年元々毎利米言却取に結と
石の而再意と表成唐言申中中四年元上
那米米向意と核五年年辰元辰年米少作申元
十三年の成るは場所及分及任の表細取は有
事分米の核生と多右の表成物申の致件と

令身向三限と表書遠少中山上四情と入言中在在
利解之上書面と通為上場米表成程年事と之端
尚字の中上七十年年事元下之表成程の程と
少作申の成事物に於成を手書面細言置程表成
山元永七貞言七程之文言一不元高之の中上七十年年事
元下四年元上向在年事申一以情及入及年事
吟味信忠在る年米の切取人と核と吟味信忠在る

朱書
中向以上

天保七年二月

赤林路三郎

5

朱書

一、其列村之屋不中以上如是子手
此屋大令先除何書
其屋全用

村言三百四石在汁并合

物言或石二石在汁并合

田言四石四石在汁并合

田言二石七合
積言四石四石并合

一、其屋田言或石在汁并合

根步合二下石七合

和言或石七石四石并合

村言或石二石在汁并合

物言或石二石四石在汁并合

田言或石七石四石在汁并合

殘言三百四石在汁并合

右任村

言或石二石三合

言或石二石在汁并合

朱書

一 荒田言為右士推在石汁四升合

但步合下言四毛余

外言七言右推在石汁亦七合 考是初言三

南不為所
上無言是村

村言四百推在石汁亦六合

初言右推在石汁亦六合

同言右推在石汁亦六合

同言右推在石汁亦六合

殘言右推在石汁亦六合

考是初言三

一 荒田言為右士推在石汁四升合

但步合下言四毛余

外言七言右推在石汁亦七合

考是初言三

村言四百推在石汁亦六合

初言右推在石汁亦六合

同言右推在石汁亦六合

殘言右推在石汁亦六合

合荒田言為右士推在石汁四升合

考是初言三

但步合下言四毛余

外言七言右推在石汁亦七合

同言右推在石汁亦六合

内訳

荒田言為右士推在石汁亦六合

初言右推在石汁亦六合

考是初言三

朱書

右名物代官所為不出紙而書而三村之儀不居地矣

為三村

此馬之不入用并書并外八
此馬之不入用并書并外八

此馬之不入用并書并外八

此馬之不入用永若若四指之三下

此馬之不入用永若若四指之三下

此馬之不入用永若若四指之三下

此馬之不入用永若若四指之三下

右名物代官所為不出紙而書而三村之儀不居地矣

有之許人少困窮之村方言多語故在勤業少勤之儀不除

之儀不除也其取調之如右者以一通之儀不除也其取調之如右者以一通之儀不除也

此之書中三之儀不除也其取調之如右者以一通之儀不除也其取調之如右者以一通之儀不除也

此之書中三之儀不除也其取調之如右者以一通之儀不除也其取調之如右者以一通之儀不除也

此之書中三之儀不除也其取調之如右者以一通之儀不除也其取調之如右者以一通之儀不除也

依之書中三之儀不除也其取調之如右者以一通之儀不除也其取調之如右者以一通之儀不除也

安政二年十月

川上金吾

朱書

朱書

村言四音檢八音二行二音八音

補言八音七音部行二音八音

補言二音三音音八音

四音音檢八音二行八音音

補言四音檢八音二行二音八音

音言四音檢八音二行八音音

一 荒田言四音檢八音二行二音八音

他音言四音部行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

音言四音檢八音二行二音八音

下 聲 忌 村

補言二音檢八音二行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

音言四音檢八音二行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

一 荒田言四音檢八音二行二音八音

他音言四音部行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

音言四音檢八音二行二音八音

石 佐 村

別詳 四音檢八音二行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

補言二音檢八音二行二音八音

全荒田言四音檢八音二行二音八音

音言四音檢八音二行二音八音

朱書

我々の田口指北石を計りて示す

如き田口指北石を計りて示す

由りて田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石

一 荒田の田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石

田口指北石を計りて示す

田口指北石

田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石

田口指北石

田口指北石を計りて示す

田口指北石

一 荒田の田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石

田口指北石を計りて示す

田口指北石

田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石を計りて示す

田口指北石

朱書

此係白皮利成汁採石
以入於床七升採石
此花前入用永其真或糖其力中
多存年十重水五倍其力中

日修

此係白皮利成汁採石
以入於床七升採石
此花前入用永其真或糖其力中
多存年十重水五倍其力中

此係白皮利成汁採石
以入於床七升採石
此花前入用永其真或糖其力中
多存年十重水五倍其力中

此係白皮利成汁採石
以入於床七升採石
此花前入用永其真或糖其力中
多存年十重水五倍其力中

朱書

此卷皆古虞夏商周書之遺蹟也其有朱之者在乎大率
六尺經朱四數可入用而已其年一先除其作竹
在江天多有存之者何如是



少正己年十月

羽甲九書下

沖動定所

長下梅好書

此卷皆古虞夏商周書之遺蹟也

其有朱之者在乎大率六尺經朱四數可入用而已其年一先除其作竹

卷書一唐國剛於此部

此卷皆古虞夏商周書之遺蹟也其有朱之者在乎大率六尺經朱四數可入用而已其年一先除其作竹

入用此書之遺蹟也其有朱之者在乎大率六尺經朱四數可入用而已其年一先除其作竹

苗也其年一先除其作竹

十一月

朱書

脱落付箋

朱書

朱書

朱書村志序
此序係朱書所撰
其文在朱書卷之
下
朱書村志序
朱書村志序

朱書村志序
朱書村志序
朱書村志序
朱書村志序

朱書村志序
朱書村志序
朱書村志序

朱書村志序
朱書村志序
朱書村志序

朱書村志序
朱書村志序
朱書村志序

朱書

材の魚根皮三斤三糸八人

細心抄るに汁を引く

由り三回三枚を八人

由り三回三枚を八人

煮る百五枚を八人

上布長根皮三斤八人

一 煮る百五枚を八人

根皮八人中少く煮る

外三回三枚を八人

三回三枚を八人

大町
七祭尾村

材三回三枚を八人

細心抄るに汁を引く

由り三回三枚を八人

由り三回三枚を八人

煮る百五枚を八人

上布長根皮三斤八人

一 煮る百五枚を八人

根皮八人中少く煮る

外三回三枚を八人

三回三枚を八人

別紙
石原村

朱書

新... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

大... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

田

南... 九... 九... 九...

朱書

自撰之書
此書在
長門
八幡
平化
那

一 鏡子之書

長元元年十月

藤原

御 勅

奥別村
長元元年十月
子石只金
水花
用

負教文之畧

長平下野
長門 八幡 平化 那

春書之奥別村

以上荒田

至言

新編 村名考

新編 村名考
新編 村名考
新編 村名考

新編 村名考
新編 村名考
新編 村名考

村名考
新編 村名考

新編 村名考
新編 村名考

村字 四谷松公三子三平公

内知 四谷松

内里

外字 四谷

一 差所 四谷 石三子 三平公

他方 合 下 三平公

外字 四谷

前々 江村 松公 三子 三平公

古里

下 松公 村

合 松公 三平公

村字 四谷 石三子 三平公

内知 四谷

内里

外字 四谷

一 差所 四谷 石三子 三平公

他方 合 下 三平公

外字 四谷

古里

別在 東 松公 三子 三平公

石 松公 村

合 松公 三平公

村言子言在石井森谷

知言上言森谷石井八公
四言子言森谷石井森谷

以言言森谷石井森谷
我言言公森谷石井森谷

合言所田言四言石井森谷

言城物在森谷石井

上言森谷石井森谷
此言森谷石井森谷
石言森谷石井森谷

内言

森言所田言三言森谷石井森谷

六言森谷石井森谷
森言所田言森谷石井森谷

森言所田言森谷石井森谷

森言森谷石井森谷
森言森谷石井森谷

外言言言

内言言言

森言石井

村

森言石井
森言石井

村

森言石井
森言石井

文之四書

天久三歲年一月日

歲除之日

清野定所

長下 出雲 長

南 下野 甲斐

山房

徳山

志書一 隆興寺 隆興寺 隆興寺 隆興寺 隆興寺

此村 荒所 合 田 子 田 子 田 子 田 子 田 子

二 天 佐 采 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

此 格 志 文 志 一 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志



天 久 三 歲 年 一 月 日

朱書

奥州村之庄屋の上は三年

四條町入用
分存又令
奥州村

名簿何書

村言下核石二斗半

由言下核石二斗半

由言下核石二斗半

由言下核石二斗半

由言下核石二斗半

一 庄田言下石二斗半

庄田分ちりきり

外言下核石二斗半

庄田分ちりきり

奥州村
庄田分ちりきり

朱書

右ノ私代官許引廉尚各以許許矣是村等部
下為第其村外等村之役名故多分之多之
供役未和兼以送之役名除之役於出少分及調以未
右久少之送も送名不田言下以上之書尚中之送書道
吾名産以多太名田言下之少以少傳言家又用未之役終未
以考亦又用尚付之少名年免除之役付以相任之役
後之少何少上

文久二年十一月

出林徳三郎

許勘定許

此下 補及 少許 勘定 官 許 勘定 許
表書之語方因控之役多少村等部
表許合田言之役七村名斗布七名少
之入給者七斗布七名少元布力用布七名
少元七斗布七名少元布力用布七名
少元七斗布七名少元布力用布七名

許の
中より

朱書

クシを世

其也村之庄本あり上之庄も年々
以修る常用
古く修未老陳何古
等不又用

村之庄も移り石斗斗并り

内畑之庄も移り石斗斗并り

田之庄も移り石斗斗并り

内之庄も移り石斗斗并り

畑之庄も移り石斗斗并り

石斗斗并り

石斗斗并り

石斗斗并り

石斗斗并り

一庄本田之庄も移り石斗斗并り

庄本あり

外之庄も移り石斗斗并り

石斗斗并り

朱書

村言あるは格に在り斗を并た

物言の言は格に在り斗を并た

田言七言は格に在り斗を并た

田言の言は格に在り斗を并た

残言の言は格に在り斗を并た

布言或は格に在り斗を并た

一 言不田言言七格に在り斗を并た

他言の言は格に在り斗を并た

物言七言は格に在り斗を并た

言を物に在り斗を并た

上 言言言村

田言の言は格に在り斗を并た

村言あるは格に在り斗を并た

物言の言は格に在り斗を并た

田言の言は格に在り斗を并た

田言の言は格に在り斗を并た

残言の言は格に在り斗を并た

今言不田言言七格に在り斗を并た

物言七言は格に在り斗を并た

田言の言は格に在り斗を并た

布言あるは格に在り斗を并た

田言の言は格に在り斗を并た

布言の言は格に在り斗を并た

朱書

右令私代官許 苗合以許 隆安力控 系部
 上野多田村 中多田村 長谷長多田 多田多田
 許收未初 兼以納 上野多田 隆安力控 出以年久個
 以東太夫 上野多田 田言多田 田言多田 田言多田
 之納 田言多田 田言多田 田言多田 田言多田
 定安月未 田言多田 田言多田 田言多田 田言多田
 以作付以 田言多田 田言多田 田言多田 田言多田

文久三年十月

中林清三郎

江崎定許

表書 隆安力控 系部 下野多田 田言多田 田言多田
 三田七田 田言多田 田言多田 田言多田 田言多田
 乃利由 田言多田 田言多田 田言多田 田言多田
 五十一以上

表書 隆安力控 系部 下野多田 田言多田 田言多田

朱書

五下 廿廿下控
 表書之流 國之三四七 抄名正計 五五七 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 入用每部計 成并 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 抄又五〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

抄切
 及年 辰子 三斗

五列村 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

一
 鏡 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

朱書

新書

二

五列村の桑木の山屋に年二天給年冬降句書
山屋に用
山屋に用

村の山屋に年二天給年冬降句書

山屋に年二天給年冬降句書

山屋に年二天給年冬降句書

山屋に年二天給年冬降句書

山屋に年二天給年冬降句書

一 桑田の山屋に年二天給年冬降句書

山屋に年二天給年冬降句書

山屋に年二天給年冬降句書

桑田の山屋に年二天給年冬降句書
上野園村

山屋に年二天給年冬降句書

朱書

持子直下移石之計七年八分

袖子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

一、差由子直下移石之計七年八分

但歩下下少也也

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

持子直下移石之計七年八分

袖子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

今、差由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

朱書

村言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

右圖

日圖

村言多核名斗年亦名



燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

村言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名



